



昨年の大注連縄の張り替え作業

坂東三十三箇所観音霊場第28番札所で、通称「滑河観音」の名前で親しまれている龍正院は、平安時代初期の承和五年(838年)の創建、慈覚大師の開基と伝えられる天台宗の古刹です。境内に一步入ると国の重要文化財に指定されている茅葺きの仁王門が見えてきます。この仁王門には大きな注連縄が飾られ、その下に何やらいわく有りげな蔦草がぶら下がっていますが、その由来を知る人は少ないようです。

江戸時代の享保年間(1716～1735年)のころ、龍正院の門前通りで火災が発生し、風にあおられ火はみるみるうちに門前に迫りました。すると、仁王門に安置された仁王様が観音堂の屋根に上り、大きな団扇で火をあおり返し本堂や民家を守ってくれたというのです。仁王様が火を消すことはあり得ないことですが、昔の人々は素直に仁王様の御利益と感じたのでしょう。そのことから毎年1月8日の初仁王



天井絵も色鮮やかな本堂は県指定文化財

の日に、火災を免れた龍正院から滑河駅寄りに住む新宿区の人々は、仁王様への感謝と五穀豊穰・子孫繁栄を願い、各家々から藁を持ち寄り注連縄を奉納するようになりました。

「今から約30年前には、250年以上前にあった大火で焼かれた大木が仁王門前にあったのですが、惜しいことに強風で折れてしまいました。この大注連縄は龍正院の龍を、飾られる蔦は山(滑河山)を表し、龍が山の中を歩いていることを象徴しています。龍が水を司ることから、火伏せの仁王様ともいわれ、多くの人々に信仰されています」と住職の高野慈泉さん。また、「仁王様は甘いものが大好きなので、仁王門前には昔はぼた餅やお饅頭、最近ではアンパンが供えられます」という時代を感じさせるエピソードも紹介してくれました。

奉納当日は新宿区の人々が、午前8時ごろから長さ約8m、太さ約25～30cmもある縄を2本作り、汗を流しながらより合わせます。厚い信仰が250年経った現代まで受け継がれている証しとなる伝統行事です。



完成し仁王門に飾られた大注連縄

成田
歴史
玉手箱

●67回●

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

龍正院
の
仁王門

感謝と五穀豊穰を願い
250年以上続く注連縄の奉納

編集後記

本号の表紙を飾った野馬込地区のレンコン栽培は、昭和62年、米の減反政策がきっかけで始められたもので、当初は4戸の農家でスタートしました。ところが、初年度は強酸性土壌が原因で大失敗。しかし、利根川を挟んだ向こう岸はレンコン生産量全国一を誇る茨城県で、そこに追い付き追い越せを目標に、10年の月日を費やし堆肥と石灰を混ぜた独自の方法で土壌改良に取り組んだ結果、レンコンの命である色の白さと栄養価の高さの両立に成功したそうです。今では市を代表する特産品の一つに成長しました。サクサクとした食感と甘くて美味しい成田のレンコンを、ぜひご賞味ください。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。